

特別講演 2

「高齢者救急と看取り ―在宅医療の観点から―」

医療法人社団親樹会 恵泉クリニック

東京女子医科大学東医療センター 在宅医療部客員教授

太田 祥一 先生

救急医療での終末期医療について、日本救急医学会は、集中治療医学会、循環器学会と共同で、「救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン ～3学会からの提言～」を策定した。

また臓器提供、異状死体等救急医は死について考え、関わる機会が非常に多い。死の直前はバイタルサイン等からのトリアージでは最重症、最緊急であるため、救命救急センターに搬送されることになる。非癌の病態では終末期の判断は難しいが、この対応がリビングウィルと合致するか等、看取り、終末期の観点から、超高齢社会での救急医療では新しい課題が明らかになってきた。End of life care という領域でも種々の取り組みがなされており、一方で、救急からもリビングウィルを加味した対応が検討されている。看取りについては医師のプロフェッショナリズムに基づいた判断が不可欠であり、今後はメディカルコントロール体制でのかかりつけ医の役割はますます重要になってくると考えられる。